

# サイエンスカフェひょうご in 神戸



参加費  
**無料**

各自 飲み物、お食事など  
ご注文ください

テーマ：

**神戸から「フクシマ」原発事故と震災を考える**

ゲスト：

**開沼博**さん (東京大学大学院学際情報学府博士課程：社会学)

コメンテーター：

**塚原東吾**さん (神戸大学大学院国際文化科学研究科：科学史)

**伊藤真之**さん (神戸大学サイエンスショップ)

進行：

**横山純**さん (神戸大学大学院国際文化科学研究科塚原研究室)

場 所：**MODERNARK PHARM CAFE**

(モダナーク・ファームカフェ)

日 時：

**2011年11月23日(水)(祝日)**

**18時30分～21時30分**

今回は、「テクノロジー災害」としての東日本大震災と原発事故を、阪神大震災を経験した神戸から考えてみたいと思います。3月11日の東日本大地震は大津波も引き起こし2万人近くの犠牲者を出すとともに、福島第一、第二原子力発電所の事故を招きました。

1995年に神戸を襲った阪神淡路大震災と福島(フクシマ)の大きな違いの一つは、原発事故による放射能汚染です。これまで、私たちの社会は、原子力というテクノロジーを受け入れ、そのメリットを享受してきました。また福島は「原発」を受け入れてきました。災害を機に、科学技術と私たちの関係について、日本の社会の在り方を含めて、みなさんと語り合ってみたいと思います。

ゲストの開沼博さんは福島県いわき市ご出身の社会学の研究者で、震災に先だって取組まれた研究をもとに『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』(青土社)を著されました。原発が受け入れられていった過程を社会的背景を含めて、さまざまな角度から分析されています。

みなさまのご参加をお待ちしています。

定員： 50名

申し込み：神戸大学サイエンスショップ/メール：scicafe@radix.h.kobe-u.ac.jp

FAX: 078 803 7979

主催：大学コンソーシアムひょうご神戸、(公財)ひょうご科学技術協会

神戸大学国際文化科学研究科 塚原研究室

協力：神戸大学 サイエンスショップ